



格乃衣古藤下無下れ下く下つ下い下け下る下袖下の下

志下平下ろ下ろ下し下是下ハ下那下智下れ下東下克下城下の下

阿下爾下和下祐下慶下と下反下我下本下書下り下し下れ下

於下身下掛下撒下れ下行下禱下当下山下伏下修下行下の下便下聖下

水下の下態下野下れ下順下礼下迴下國下ハ下皆下釋下門下の下

習下以下安下り下終下子下祐下受下け下る下心下子下立下る下教下

而下修下て下已下行下勝下子下赴下う下こ下と下我下本下書下

山を立ゆく
しほの浦をさへ
しほの濱を
折にちり志はまき
まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は

まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は
まはる程もなく
の母直原は

一生涯やな 早月 此屋の内へ葉内

いふ 早月 ひとり人そ 早月 ひとりやま

中夕へ我お袖てみるわく乃女直る

子い言て宿をさうる魚宛便りもあ

祢り月くハ我おをあ 早月 一

れ有を 早月 一人里らけまは燈

邊の松月もきくと吹あれて月影た

はらぬ国の平少反 早月 入りわめ

中 早月 やら 早月 此れ葉枕と膏

斗 早月 此假祢き 早月 咄と写と 早月 新へ

我 早月 にも字は席子 早月 咄やまらしと

柴 早月 戸を 早月 さいと 早月 さい反痛り 早月 さい

さ 早月 反と 早月 ま 早月 ぼ 早月 へ 早月 と 早月 藤を 早月 び

きたら 早月 出る 早月 と 早月 葉 早月 ま 早月 する 早月 ころ 早月 や 早月 遣

ういてわいしーきなまー志い
てま宿をかり衣かしー袖乃露涼
ま草れ菴のせりーまは様寢乃成り
おうさくこらひの夜宿をこま
名種うましくまはれなる物ハ
なるれしやぬまのさくは是ハあま
とすれきまさくまはくくをい

とやらわしーまき乃女のいとも
まのめくは甲あは面白わら

おもさしーいとまふいしをく
くまシテ上カレ取しーや様人のめく目も取ま
つたとるま目賸りわさく物うけま
今宵とくまは宿のあしーれ情深
まよれ月もさー入目圍乃うらま

麻草れ糸をきりきりく昔を今に
 なるさちや 賭のうみそのよろこび
 世つる糸のささくおうけに 清増
 や人鬼よ生をうけおるがら浮世
 子のをきりてを苦志に 世に
 半世の人のれもめ糸の先生をた
 寸草をこも佛身を承りふたよりを

阿のわらう字世よけりるもの
 際あるさちあらをのたまとのる
 子叶にさち新らととて 給よると
 佛果のえしとある所らし 唯是地
 水火風乃の里は響くもまとり
 生死は輪廻——五道六ろよ思るる
 唯一心の迷ひをり凡人間れある成

事と葉まゝの人更子あきり
川井より老と改おをが程もうれし
夢の世と夢とわいとハコ我る
あゝ心も恨てもいぢり
くわ 上段半捲 扱もも又糸何より
は乃宿と為る日歌乃いと
ふ里きしぞれち名言寺人即し

上捲
賀茂れ刃ありはあはれ
けのくろまごころまけ糸桜の
もさるよと吸吐ハ 上段 何人多寺
の言 上捲 梅子出る乃いと為月
よろもやまら物 上捲 今も賭
く存糸 上段 命乃つれな
長寺命の行まなさを 上段 何の石の浦

子多きものゝ指すもすく
あ

子容信直早子也 民作早海子早也

い程子うへの山子あかりををれて

焼火を一つあて中さうしうあくの

習早は待とく 一早は信直早は程早の

がうん信直早中さうしうあくのあくの

ぬく早く 一早は信直早は程早の

わんまむつハのぬらし此国の

うらち早一早は信直早は程早の

心の中あかきくは信直早は程早の

いん早あ早く信直早は程早の

い信直早は程早の

信直早は程早の

信直早は程早の

眩血たらしき融條——臭穢多満て
肥脹——膚臑悉烟壞きり人の死骸
ハ教志を斬と祀と去くつこ
うりい極これ多きとよましくおき互
乃思塚よこまけろ鬼れどあり
たうろしわわわうふめをみらわく
の母ま原のうろ塚よ鬼こもわらと

田手

病もきんしの心もく
こ病も後とれ所をきくける
わい志ねもも見子ゆたおき
てなしくいんたれさる客僧
やまれいんたれさる客僧
うらあまよなされ柔らき
三尸子来りし胸をこりけがのは

田手

古

感陽宮乃煙氣一 野風山風吹一
落て一 ちりちり心ま天地一
みりて一 雲のちりちり雨のちり一
鬼一口一 ちりちりちり一 歩一
足音一 振揚る鏡杖乃一 ちりちり一
星と拂てちりちり一 東亦一 降一
三世明王一 南方軍叱利夜又明王一

西方子大威徳の王一 心亦一 合剛一
又の王一 中央子大日大聖不動明王一
唵呼嚕呼嚕疑柔刹摩多招境河毘羅一
唵欠娑婆呵唵ぬ羅叱干籍一 見我身一
若教菩提心見我身者教菩提心聞我一
名去以西修吾聽我說者得大智一 智一
我身去而身成佛一 而身成佛也明王乃一

誓縛よりきて責厳く祈里ふせよ
くわさくこり又かひもてハコト
文くばいふとさるつね鬼女成り
たらまらより果て天地よ牙を
ゆめ眼睛かそ足もさハよ所く
とだくよいめるは安道原の黒塚よ
隠きすかきと清き子ぬぬ清き一や

取しれわの姿やとびよ新ハる所
お寸ら後若く云群多程さう後一
夜嵐のちもとよ立すさきう勢よくわ
夜あり〜れ身よ支り〜るわ

